

【談話】

民主主義と立憲主義を破壊する安保法制強行採決に強く抗議します

2015年7月15日

緑の党グリーンズジャパン 共同代表

中山 均

長谷川羽衣子

長谷川平和

松本なみほ

安倍政権が提出し衆議院で審議されてきた安保法制案は、その根本的な前提となる「存立危機事態」や「重要影響事態」に関する政府の答弁も二転三転し、法案の根本的な問題が次々明らかにされてきました。その実質的審議はほとんどなされず、野党や市民の強い抗議の中、法案は衆議院・平和安全法制特別委員会で強行採決されました。

ほとんどの憲法学者だけでなく、複数の内閣法制局長経験者や最高裁判事経験者、日弁連などもこの法案を「違憲」と断じ、市民の圧倒的世論が反対する中で、ただただ独善的で強引な解釈と強弁、そして「数の力」にのみ依拠した政権と自公両党による暴挙は、何の正当性も合理性もない、文字通り民主主義と立憲主義に対するクーデタです。

法案は衆院本会議で採決され、参議院に送られる見込みです。しかし、今この瞬間にも、多くの人々が国会を包囲し、安倍政権に抗議するさまざまな行動が、全国各地で取り組まれています。私たちには、多くの先人たちの犠牲と努力によって守られてきた憲法と民主主義・平和主義を日本と世界の未来の世代へ引き継ぐ責務があります。その責務を深く自覚しながら、私たち緑の党も、広く他の政治勢力や多くの市民の皆さんと連携し、法案の撤回と廃案、安倍政権の退陣に向けて、あらゆる努力を重ねていきます。